

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

農業高校としての機能を最大限に活かし、社会や産業の発展に貢献できる人材を育成することにより、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着と、これらを活用して主体的に課題を解決するための思考力、判断力、表現力、創造力などを身に付けさせる。
- 2 生命と人権、自然と環境を大切にす態度を育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。
- 3 豊かな勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力やチャレンジ精神を育む。
- 4 地域や産業界等との連携を密にし、様々な社会資源を活用した教育活動を展開し、府立高校あるいは農業高校としてのニーズと期待に応える。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。
 - ア 1年生の国語、数学、英語において、習熟度別少人数授業を導入し、個々の生徒に応じた、きめ細かな指導により基礎学力を向上させる。
*授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」(H29 3.16 H30 3.14 R1 3.18)を毎年0.03引き上げ、令和4年度には3.27にする。
 - イ アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させ、生徒が主体的に学習に取り組むための環境づくりを進める。
*授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができています」(H29 3.24 H30 3.24 R1 3.30)を毎年0.03引き上げ、令和4年度には3.39にする。
 - ウ 学力委員会を設置し、「高校生のための学びの基礎診断」の導入と効果的な活用等について研究する。
*教育産業の基礎学力調査を活用するなど、基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルを構築する。
- (2) 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。
 - ア 各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科との連携方法について研究する。
*授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」(H29 3.2 H30 3.16 R1 3.18)を毎年0.3引き上げ、令和4年度には3.27にする。
 - イ 課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。
*農業クラブ大阪府研究発表会に向けた発表本数を増加させる。
 - ウ 「知財力開発校支援事業」の研究指定を生徒の知的財産への理解向上、創造性、主体性、自主性の醸成につなげていく。
*知的財産教育を教育活動に定着させる。「園芸高校ブランド」を形成する。

2 安全安心で魅力ある学校づくり

- (1) 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識を身に付けさせる。
 - ア 教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナー、清掃活動、美化などに対する指導を徹底する。
*遅刻による早朝指導対象生徒数(H29 65名 H30 108名 R1 86名)を毎年1割以上減らし、令和4年度には62名にする。
 - イ 災害時の生徒の安全確認を迅速に行うとともに、帰宅困難となり一定期間待機せざるを得ない生徒の安全を確保する。
*学校ウェブページに開設した災害時における生徒の安否状況を確認するための緊急連絡フォームを実用化する。
- (2) 職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を確立する。
 - ア 職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制をさらに充実する。
*生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」(肯定率H29 73% H30 70% R1 73%)を毎年2%以上引き上げ、令和4年度には79%にする。
 - イ 中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた指導を推進する。
*年度末の進級率・卒業率(H29 95% H30 95% R195%)を毎年1%以上引き上げ、令和4年度に98%とし、それを維持する。
- (3) 修学上の支援を要する生徒に対する支援体制の確立
 - ア 生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。
*ともに学びともに育つという理念にもとづき、自立支援コースを含めた学校全体の支援教育体制を完成させる。
- (4) 生徒に豊かな心育むための教職員の意識・意欲の醸成と学校の魅力の発信
 - ア 教職員の服務規律等についての意識向上を徹底するとともに、校務についての組織的、効果的、効率的な遂行を図る。
*教職員の問題事象をなくすとともに、働き方改革による長時間勤務の是正を進める。
 - イ 府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。
*学校説明会や体験入学会の充実、広報資料作成、学校ウェブページ更新、報道提供を推進する。
 - ウ 創設されたネットフェンス等を通じ、本校教育の見える化を進める。
*老朽化による危険な施設・設備について計画的に撤去・改修を進める。

3 夢と志を持つ生徒の育成

- (1) 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。
 - ア 就職希望者については、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。
*学校紹介による就職率100%を維持する。農業関連分野への就職を促す。海外での研修を実施し、異文化交流等の体験により国際的な視野を育む。
 - イ 進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進路指導体制を確立する。
*大学進学に対応した教育課程を編成する。国公立大学や難関私立大学への進学者15名以上を目標とする。
 - ウ 各学科の学習内容を深めるとともに、キャリアアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。
*本校の教育内容に応じたキャリア・パスポートを開発するとともに導入を図る。
アグリマイスター顕彰制度認定者(H29 3名 H30 7名 R1 5名)を毎年3名ずつ増やし、令和4年度には14名にする。
- (2) 特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
 - ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する
*生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」(肯定率H29 68% H30 70% R1 70%)を毎年3%以上引き上げ、令和4年度には79%にする。
 - イ 農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味あわせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。
*農業クラブ加入率(H30 48% R1 53%)を令和4年度に60%とし、それを維持する。生徒、保護者、地域関係者等を対象とした研究発表会を開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
1 生徒 ○全体において、1年生と2年生の肯定率は70%であったが、2年生の肯定率は60%となり低くなった。 ○肯定率の高いもの ・本校の教育に特色があること、自分ほまじめに授業に取り組んでいる ・将来や生き方について考える機会がある ・就職に有利、入学して良かった ○肯定率の低いもの	第1回(6/30) ○学校教育計画及び学校評価について ・すべて承認を得られた。 ・新型コロナウイルスへの対応の確認 ○各分掌等の今年度の取組目標について ・農場廃棄物を利用した加工食品開発について、ノウハウを農家に提供して欲しい。 ○卒業生の進路状況について ・県外の農業大学校を選ぶ生徒の理由を教えて欲しい。

<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや地域活動への参加の機会がある ・生徒会活動への参加意識、体育祭は楽しく行えるよう工夫されている *新型コロナの影響で、体育祭や地域連携が行えなかったことが、これらの肯定率の低さにつながっている。 <p>2 保護者</p> <p>○肯定率の高いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている ・本校が独自の教育活動を行っていること ・地域連携を積極的に行っている ・地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルが示されていること。 <p>○肯定率の低いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが授業をわかりやすく楽しいと言っている ・部活動の活発さ、学校の施設・設備への満足 *保護者については、一般的に肯定率は高い。 <p>3 教職員</p> <p>○肯定率の高いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動について教職員で日常的に話し合っている ・生徒の問題行動の防止や起きたときの組織的な対応ができていること ・個に応じた学習指導の工夫 ・人権尊重に教育において同和問題などの差別、障がい者に対する理解を高める指導 ・公文書の管理、指導要録の管理。 <p>○肯定率の低いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を生徒にとって魅力あるものとする工夫 ・施設・設備の長期的、計画的な拡充 ・生徒会活動への支援。 *学習支援クラウドサービスの導入やホームルーム教室のモニターの設置等によりICTの整備・活用について肯定率が大きく高まった。 	<p>○外部での表彰について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい実績があるので、ホームページで発信すること。 <p>○ホームページへのアクセス数について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセス状況を分析し、発信に努めること。 <p>第2回（11/20）</p> <p>○第1回授業アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の1年生に比べて、全ての項目で評価が上がっているのはなぜか。 ・同じ生徒比較だけでなく、学校としての学習効果を測るために、毎回比較を行っておく必要がある。 <p>○進路概況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学面接に関しては、自分の言葉で話すことが必要で、内容が薄いものや覚えていないなどの準備不足は、結果に結びつかない。 <p>○令和3年度の使用教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告により承認受ける。 <p>○臨時休業期間中の学習の報告</p> <p>○学校のPR動画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR動画とドローン撮影から作成した動画の視聴していただいた。 <p>第3回（2/18）</p> <p>○令和2年度 学校経営計画および学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべて承認を得られた。 <p>○令和3年度 学校経営計画および学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校像及び中期的目標について承認を得られた。 ・塀が無くなり外から生徒の実習風景が見られるのがよい。 ・老朽化した温室の撤去について、府教育庁に要望すること。 ・園芸高校産のブランドについては、毎年安定した生産を行うことを目標にすること。 <p>○令和2年度各分掌等の取組目標・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻については、理由を確認し指導方法を改善すること。 ・卒業生研究発表会は、今後継続していくこと。発表する生徒の成功体験は大切である。 ・オンライン授業の導入により先生方の負担が増えたのでは。 <p>○令和2年度卒業生 進路状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学した生徒にとって、絶対に卒業ということより、自分に向いている方向に進んでいく方がよい。 ・卒業後の進路選択肢の多い学校なので、生徒の進みたい道に進むのがよい。 <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定率の高さについては、1年、3年、2年の順となった。 ・保護者の回答については、肯定率が高い。 <p>○授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度1年生は授業への意識が高い。3年生は進学、就職に向けて意識が高くなる。 <p>○その他</p>
---	--

府立園芸高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。</p> <p>(2) 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。</p>	<p>(1) ア ・1年生の国語、数学、英語において、習熟度別少人数授業を導入する。 ・付けさせるべき学力と付けさせるための方法について研究する。 イ ・アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させる。 ・学期ごとに生徒の学習状況調査を実施する。 ウ ・「高校生のための学びの基礎診断」の導入をめざし、学力向上に向けての具体的な方法について研究する。</p> <p>(2) ア ・各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科や他の教科との連携方法について研究する イ ・課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。 ウ ・「知財力開発校支援事業」の研究指定を生徒の知的財産への理解向上、創造性、主体性、自主性の醸成につなげていく。</p>	<p>(1) ア ・授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」(令和元年度 3.18)を 3.21にする。 イ ・授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができている」(令和元年度 3.30)を 3.33にする。 ・教育産業の基礎学力調査を活用し、生徒の学習状況調査を実施する。 ウ ・教育産業の基礎学力調査を効果的に活用し、基礎学力の定着に向けたPDCAサイクル構築につなげる。</p> <p>(2) ア ・授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」(令和元年度 3.18)を 3.21にする。 イ ・各学科における専攻部門等での発表を必須とするなど、農業クラブ大阪府研究発表会に向けた発表数を増加させる。 ウ ・知的財産教育を教育活動に定着させる。 ・「園芸高校ブランド」を形成する。</p>	<p>(1) ア ・授業アンケート項目8は3.24となり、授業への興味・関心の高まりを確認できた。(◎) イ ・授業アンケート項目1は3.37となり、授業に向かう姿勢の向上を確認できた。(◎) ・1・2年生について、園芸高校生の生活・行動・意識に関するアンケートという形で6月と1月に実施し、分析を進めている。(○) ウ ・基礎学力の定着についての必要性は共有できたが、基礎学力調査結果の有効な活用に至らなかった。(△)</p> <p>(2) ア ・授授業アンケート項目9は3.27となり、知識・技術の定着を確認できた。(◎) イ ・臨時休業により十分な研究活動に至らなかった。また、新型コロナにより農業クラブの研究発表会をはじめとする外部発表会等の中止となったことが大きく影響した。(－) ウ ・知財教育を導入した授業に参加した生徒については、知財への理解向上等の成果が認められた。次年度は知財を扱う活動を増やしたい。(○) ・「園芸高校ブランド」作りに向けて、本格的に始動した。新型コロナの影響などもあり、十分な進捗が得られなかったが、農場廃棄物を利用したソースを試作できた。次年度も研究指定が継続できるようであれば、顕著な成果につなげたい。(○)</p>
2 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識を身に付けさせる。</p> <p>(2) 職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導の確立</p> <p>(3) 修学上の支援を要する生徒に対する支援体制の確立</p> <p>(4) 生徒に豊かな心育むための教職員の意識・意欲の醸成</p>	<p>(1) ア ・教職員全員が丸となり、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナー、清掃活動、美化などに対する指導を徹底する。 ・災害時における生徒の安否状況を確認する。</p> <p>(2) ア ・職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制のさらなる充実 イ ・中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた教育活動を推進する。</p> <p>(3) ア ・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。</p> <p>(4) ア ・教職員の服務規律等についての意識向上を徹底するとともに、効果的・効率的に職務を遂行する。</p>	<p>(1) ア ・遅刻による早朝指導対象生徒数(令和元年度 86名)を1割以上減らす。 ・清掃活動の徹底等により、美化意識を向上させ、学習環境を整えていく。 ・学校ウェブページの緊急連絡フォームを実用化する。</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」(令和元年度肯定率73%)を75%にする。 イ ・年度末の進級率・卒業率(令和元年度95%)を96%にする。</p> <p>(3) ア ・支援を要する生徒については、生活面、学習面等での配慮事項を明確にし組織的な指導体制を構築する。</p> <p>(4) ア ・教職員の問題事象をゼロにする。 ・教員の時間外労働時間(80時間超え)を半減する。 ・行政職員の時間外労働時間数総数(前年度)を維持する。 ・電子データによる情報共有、職員会議等の効率化と資料のペーパーレス化を図る。</p>	<p>(1) ア ・新型コロナによる臨時休業がありながらも遅刻による早朝指導対象生徒は119名に増加。指導の強化と方法改善等が必要である。(△) ・新型コロナ予防への対応により、校内の衛生環境の整備につながった。ホームルーム教室の清掃等へのさらなる指導は必要。(○) ・学校ウェブページに加え、学習支援クラウドサービスを導入したことで、健康確認等についての確実性が向上した。(◎)</p> <p>(2) ア ・学校教育自己診断「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」の結果は、70%に減少した。(△) イ ・年度末の進級率・卒業率は96%に増加した。(○)</p> <p>(3) ア ・ケース会議、教育相談委員会等を機能させ、進級・卒業に向けての生徒支援につなげていくことができた。(◎)</p> <p>(4) ア ・問題事象は無かったが、服務規律の厳守等については、機会があるごとに周知徹底する必要がある。(○) ・新型コロナによる休業等の影響もあり、教員の月当たり80時間超えは、前年度の4割となった。(◎) ・行政職員の時間外労働時間数総数は、前年度の15%減となった。(◎) ・メールでの連絡、共有ドライブの活用等により、職員会議等のペーパーレス化を図ることができた。オンラインによる職員会議の導入につなげたい。(◎)</p>

府立園芸高等学校

		<p>イ ・府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。</p> <p>ウ ・創設されたネットフェンス等を通じ、本校教育の見える化を進める。 ・老朽化による危険な温室等の施設・設備を計画的な撤去・改修等を進める。</p>	<p>イ ・農業高校である本校の強みを活かした地域連携、地域貢献の仕組み作りを行う。 ・学校説明会等の参加者を10%増加させる。(令和元年度673人) ・ホームページを魅力化しSNS利用などによる効果的な教育活動の発信を図る。</p> <p>ウ ・施設・設備の適切な管理、実習風景など、本校教育の魅力を外部に伝える。 ・老朽化による危険な温室等の施設・設備の計画的な撤去・改修等を進める。</p>	<p>イ ・新型コロナの影響により、本校創立記念祭や地元の農業祭など地域と連携した多くの取組みが中止となった。その中でJA大阪北部農産物直売所との販売契約を結び、本校農産品の販売が可能となった。(◎)</p> <p>・新型コロナの影響により、学校説明会や体験入学会の中止をし、感染防止のための参加人数制限を行ったため参加人数は減少した。(一)</p> <p>・本校ウェブページに動画による学校紹介やドローンによる空撮映像サイトを開設した。また、本校独自のSNSを開設するなど、本校の教育の魅力をわかりやすく発信できた。(◎)</p> <p>ウ ・樹木や圃場の管理は行き届いているが、危険な温室の撤去等はできていない。生徒たちの実習態度については、外部からの指摘はない。(○)</p> <p>・大阪府教育庁には、危険な温室等の撤去・改修等を要望している。(○)</p>
<p>3 夢と志を持つ生徒の育成</p>	<p>(1) 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。</p>	<p>(1) ア ・就職希望者については、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。 ・海外での研修を実施し、異文化交流等の体験により国際的な視野を育む。</p> <p>イ ・進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進学指導体制を確立する。</p> <p>ウ ・各学科の学習を深めるとともに、キャリアアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。</p> <p>(2) ア ・行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。</p> <p>イ ・農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味あわせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。</p>	<p>(1) ア ・学校紹介による就職率100%を維持する。農業専門学科に関連する産業分野への就職者を増加させる。 ・フィリピンでのスタディツアーを実施する。</p> <p>イ ・学科間を超えた進学指導体制を確立する。 ・国公立大学や難関私立大学への合格者10名(令和元年度9名)以上とする。</p> <p>ウ ・本校の教育内容に応じたキャリア・パスポートを開発するとともに導入を図る。 ・アグリマイスター顕彰制度認定者(令和元年度5名)を8名にする。</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」(令和元年度肯定率70%)を73%にする。</p> <p>イ ・農業クラブ加入率(令和元年度53%)を55%とする。 ・生徒、保護者、地域関係者等を対象とした研究発表会を開催する。</p>	<p>(1) ア ・新型コロナの影響もあり、1次試験での不合格者が増えたが、学校紹介による就職率100%を維持できた。今後、厳しくなると予想される就職状況を見据え、学力試験への対応にも力を注ぎたい。(○)</p> <p>・フィリピンでのスタディツアーについては、新型コロナにより中止した。(一)</p> <p>イ ・進学指導部がイニシアチブをとることで学科を超えた進路指導を行えるようになった。(○)</p> <p>・国公立大学に4名、難関私立大学に6名の計10名が合格。(○)</p> <p>ウ ・キャリア・パスポートを導入できた。キャリア教育の充実に向けて今後のさらなる有効活用が望まれる。(○)</p> <p>・新型コロナの影響による検定試験や外部発表等の中止により、アグリマイスター顕彰制度認定者については2名に留まった。(一)</p> <p>(2) ア ・学校教育自己診断「高校生活に自分なりの目標を持っている」の結果は、72%に向上。(○)</p> <p>イ ・農業クラブ加入率は、新型コロナの影響もあり46%に減少した。専門学科でのさらなる働きかけが必要である。(一)</p> <p>・1月に池田市文化会館大ホールを利用し、本校では初めてとなる、各学科の代表者による3年生の研究発表会を開催した。新型コロナの感染予防のため、参加を2・3年生のみとし、1年生は教室でリモートにより視聴することとした。充実した発表と質疑応答がなされ、大変有意義な取組みとなった。(◎)</p>